

「私は かずおばちゃん」

民生委員児童委員 海江田和子

この子が不登校になっているのはなぜなのか？この家族も、明らかに困っている。そして、不登校は長期化している。幾つかの相談機関、支援機関も繋がっている。

しかしながら、本人も、家族も安心にいたっていない。

なぜなのか？では、私の立ち位置はどこだろうか？

いま私は、この子のそばにいていいのだろうか？私の存在を望んでいるのだろうか？答えの出ない自分に、焦りを感じていた。そんな葛藤を続けていました。そんな時、この講座を知りました。

特に、田邊さんの講座のなかで、(non-TIC)のお話に衝撃を受けました。支援している方に対しては、否定的な言葉をかけないことは、心がけていたことでした。

でも、ふと、過去の職場での出来事(コミュニケーション)がよみがえりました。

否定や正論を言葉にしても何も生まれなかった経験を思い出しました。

人と接する時の最低限のルールだなと痛感しました。

そして別の支援者(不登校の高校生)が「否定されてつらい」と話してくれた時、言葉を選び、選び、話を聞いた時のことも、あれでよかったのかと、自問自答していたことを思い出しました。そして、私自身の気づきがありました。それは自分自身の関わりの立ち位置でした。

私の立ち位置は、支援者であるが、その前に近所に住むかずおばちゃんではないのか。そのことに気付いた時、この子のたった一つ、二つのつぶやきの大切さに気づくことができました。

“この子のつぶやきをキャッチできるところにいよう！！”

これならやれるかも、と思い、山根さんの講座で尋ねてみたくなりました。

- あなたができること
- あなたがやりたいこと
- どうしていいかわからないときは、「わからない」でいいよ

あなたの気持ちをメモしてその紙を相手の方に伝えてほしい。

こんなやり取りをしたいのですが？と尋ねると「大丈夫」と言って頂きました。

そして「箇条書きでいいよ。」ということばかけや○×、また2, 3個の中から選択できるようにしてあげる。と答えやすいとのアドバイスを頂きました。

この子のそばにいるかずおばちゃんの会話のきっかけや、私の対応を確実なものにできました。

これからも、常にかずおばちゃんでもこの子と接していけそうです